

6

がんの治療はどんなことをするの？

手術

まずいをして、眠っている間に、皮ふを切って、がんをとりのぞく方法。大きく皮ふを切らずにすむ内視鏡手術もある。

放射線

からだの外から、がんがあるところに、放射線という、見えない電波のようなものをあて、がんをなくしたり小さくしたりする。

薬・点てき

薬を使ってがんをなくしたり、小さくしたりする方法。薬の種類によって、飲んだり、注射したり、点てきしたりする。

副作用

がん治療の内容によって、次のような症状が出ることがあります。これを副作用と言います。

あまり食べたくなくなる／かみの毛がぬける／手や足がしびれる／つかれやすくなる／かぜをひいたり、熱を出しやすくなる／いらいらしたり、気持ちが落ちこんだりする



がんの新しい手術法

ロボット手術

ロボットの力を借りて手術することで傷を小さくしてからだへの負担を小さくします。



緩和ケア

がんはかぜやけがと違って、治療に時間がかかる病気です。がんを治療してもからだが弱ってしまったり、病院に何度も通ったり、治療にたくさんお金がかかったりすることがあるので、患者さんは病気になる前と同じようには生活しづらくなります。病気や治療でおこる、からだの痛みや、気持ちのつらさを楽にするための「緩和ケア」もいっしょに行われます。

- お医者さんや看護師さん、薬剤師さんなど、みんなで力を合わせて緩和ケアをしています。
- からだのいたみや、気持ちのつらさがある時は、がまんせず相談することが大切です。
- 緩和ケアはがんが見つかったときからいつでも受けられます。
- 患者さんだけでなくその家族の人も受けられます。
- みんなが病気の人にやさしくしたり、協力したりすることも緩和ケアの一つです。

